



門 7 9  
585  
12



香道千代花秋下卷一

大枝流芳編集

新組香十品

○紅葉香

双壺組

香四種也

- 柞つばき花はな 二色 檀たん花はな 二色
- 楠くすのぎ花はな 二色 黄わう檜げん花はな 二色
- 右みぎ内うち一ひと包つか 試こころみみかかと
- ウう桐きり花はな 一ひと包つか 試こころみみかかと

香道千代花秋下卷一

香道和入共行録一

右試五色抄て中香五色打ませ  
 檀(おと)常乃香一息箱(いし)聞ハ二息  
 ウハ二息箱(いし)中ハ三息たるべし又色  
 とも聞抄(おき)後(のち)録(ろく)とて一(ひと)記(き)  
 録(ろく)中(なか)れ書(かき)やうハ  
 一(ひと)煙(えん)中(なか)ハ うすもみぢら  
 二(ふた)煙(えん)中(なか)ハ ひもみぢら  
 三(さん)煙(えん)中(なか)ハ 梢(こむぎ)乃(の)みき

四(よ)煙(えん)中(なか)ハ ハーハ  
 又(また)煙(えん)中(なか)ハ 子(こ)ハ  
 聞(き)一(ひと)つもさきハ 鼓(つづみ)もみぢら  
 表(おもて) 札(し)と紋(いん)  
 一枚(まい) 檀(たん)一枚(まい) 楠(くすのぎ)一枚(まい)  
 裏(うら) 黄(わう)檜(げん)一枚(まい) 楓(かえで)一枚(まい)  
 新(あらた)田(た) 柞(さく)杜(と) 浅(あ)呂(ろ) 小(こ)倉(くら) 生(い)駒(こま)  
 片(か)立(た) 三(さん)室(むろ) 筑(つく)波(な) 双(ふた)岡(おか) 大(おほ)原(はら)

# 紅葉香之記

香組

柞	檀	栴	栴	柞
少	不	等	等	少
少	不	等	等	少
少	不	等	等	少

柞 檀 栴 栴

新田 柞 檀 栴 栴

柞 杜 栴 檀 栴 栴

浅間 栴 檀 栴 檀 栴

ひらりみり

指のしき

千一白

小余 栴 檀 栴 栴

うすきみり

生駒 栴 檀 栴 栴

ちりりみり

月 日

○小余香

双密組

香五種也

一 二 三 四 五

太名二色づ試年

右一より五をた右へ月けをら

進めても一色紙久五色よりうら  
 ませて焚かると聞は随て名乗紙よ  
 百人一首乃ぬ文字よ化をかし  
 小多香れがく連中の中箱ゆわ  
 らば二点きるべ  
 わきのの乃 かゆきれ  
 おまやこま みくくの  
 よれなるよ ちきんまふ

わきののハ たけのハ  
 ちきんまふ ちきんまふ  
 こまこま 望十一首れ五文字也

小倉香し記 番組

- 一 ちきん
- 二 つき
- 三 月
- 四 孫さめ
- 五 かこれ

二一四六一ちきんまふ

香道新入受後修下

とくやゆ	名乗
あさのさえ	名乗
ちきうとき	名乗
みうの	名乗
ちきうとき	名乗

月日

○拾貝香

白芳山組

伊勢乃海濱とてこの極貝  
 はなりのそやけすじ貝やむろ  
 とせたまやいろとむと云僅馬  
 樂の初より心のも或はちりり  
 ち乃乃方仙貝れ敷とてた磯太  
 海とたちよつら三十六乃貝と拾  
 のそよらて満汐るれ貝成  
 海よとせ干汐なまば磯より拾

香道和入集行録一

濁ろ乃みろとらふと

香四種也

一色 二色 満沙二色

干沙二色 内各一色 試し物

右試中色 試て 本香十色 打まぜ 焚  
本と 釜一連中 丸儀 右海と たる  
は 丸 剛 双方 平よ 竹と たる 人 燈  
は 磯方 丸の 海方 丸の 丸の 磯方 丸の

の 貝と 一川と なる 海方 丸の 丸の  
海方 へ きく 多き 丸の 丸の 丸の  
丸の 丸の 貝丸 丸の 丸の 丸の 丸の  
貝と 丸の 海方 満沙 と 剛 丸の 丸の 丸の  
きく 丸の 丸の 貝丸 と 丸の 丸の 丸の  
二つ 丸の 海方 干沙 と 剛 丸の 丸の 丸の  
一川 磯方 干沙 と 竹 丸の 丸の 丸の  
丸の 二人 丸の 丸の 丸の 丸の 丸の  
丸の 丸の 丸の 丸の 丸の 丸の 丸の

きくわのしきだん 一門あり 盤の貝  
はくまの盤乃との勝負ハ終り香ハ  
勝きくわ一貝多く拾死方勝  
ととと一破ハと定と定也

立物

秋仙貝三十六 破ハ十八海子 生れ貝と用  
下生乃貝多くハ角細子ハはくま一  
盤

盤の面ハ上巻ノ著ガお一破ハ金銀の  
妙子海ハ彩色ノ注と繕ヤカズ一式ハ  
墨紙子一巻ト

札の紋

表 一口枚 二口枚 満得一枚 干得一枚

ハト十枚一人分なり

- 裏 蛤貝 蛸貝 色貝 行貝 白貝
- 螺貝 簾貝 橋貝 袖貝 花貝

香道新法先徳集



# 拾貝香記

香櫃

一 くらとせ  
二 けり帯

満引子村

干引吐月

一満二二一二干二一一

磯方十二点負了

<sup>名</sup>揚貝一満二一二干一 七点

<sup>日</sup>色貝一満二一一 五点

# 海方十六点勝

<sup>日</sup>白貝一満二二一二干二一一 十一点

<sup>日</sup>神貝 二一二二一一 五点

月日

# ○扇合香

流芳組

著圓集わきあはる扇合あしあはる乃方あしあはる内あしあはる乃わり  
事こととれことせてこと納成なせ以も是骨こほねにに英えい有あり

紙よりて樂府の要文と云ふ紙  
おしきりたけ扇としてつくりま  
すぐきよりて勝はるりたりと云

### 香三種也

紫丸扇 色 白扇 色  
大扇 三色 試年一客有り  
右白扇の香乃用お香の包紙に  
包の内一包林の扇と云べし是ハ

中あてても一煙のともるると盤  
上乃立物すまじ

右試二包終てお香十一包打ませ  
焚出と毎一煙ひききりた右  
へりて間愈一太扇ハ一人きき三  
間二人より二間餘ハ尚一君さど  
林の扇乃香きき尚まば立物す  
尚どきりたけと同事なり盤の勝

負源平多と同ト一筋は勝らん人  
乃扇ハ糸は黒骨は黄から地紙は  
樂府もさう扇と糸の由べし先一  
筋勝るとに録を糸べしに録ハ常  
れ扇は書べし

立物

金用扇 銀用扇  
左の扇骨のりくと立物の柄はに

らじやふゆべし此の紋と縁  
書毎一糸は黄地紙黒の由  
ゆふぎ一本樂府かく扇  
約の中は樂府のゆり  
は類はともかく扇  
はくろく一盤ハ源平書れ盤と用じ

札の紋

表は糸扇 白扇 大扇  
一枚一人分あり裏は十姓書れ此の紋は同



○繪合香

流芳組

絵合の事源氏物語よかきうんせ  
くあきわつりり著聞集な  
どふもりくくり繪合たたよ列  
は勝負わんびと組香よらん

香四種也

- 一四色 二四色 三四色
- 右のりり 一色つ 試よ
- 審一色 試年

右試三色とてお香十色打もせ焚  
おと一柱むきみせ勝負すりり  
記録高ぶりちりこべーウ一人  
伊三点二人より二点け香はさく  
審かきりゆて勝負終りしん  
三柱とて審の香と入もせて焚  
もやくかきば具りれよりて  
たたりの開へー審れゆ多き方

勝りて盤の勝負あり香ハみ子  
 園べし一符の香ハた右園とくく  
 多き方へ捨一枚づゑて一なく  
 けりあし扱ひ双方どどと審れま  
 多きまうさ大捨と五勝負決り  
 札の  
 表裏とも小十煙香れ札と貝へ  
 立物

右白地小繪九枚金地大繪一枚  
 右浅黄地小繪九枚銀地大繪一枚  
 右他りやうの上巻の圖は委一り谷  
 盤  
 中は勝負れ場あり外は筋あり  
 たは二十右は二十わくらけり  
 経立とく勝負り方へ一なく  
 経立とく勝負り方へ一なく

立 ともりなり

結合香之記

香組

- 一 芍薬山
- 二 芙蓉梅
- 三 芍薬山
- ウ かり江

三一二三一ウ二一三二

た方十二点負了

紅梅<sup>名承</sup> 三 二 一ウ二 三二 八点

初揚<sup>日</sup> 一二三 一 四点

右方十四点勝

芙蓉<sup>日</sup> 三一二 一ウ 一 三二 九点

は葉<sup>日</sup> 一二 一 一 二 八点

月日

○忍音香

去のハ 録

流芳組

卯の花 三色 菖蒲 六月

香曰種也

古の内に一色づつ試みたり  
子親三色試みたり

右法三色終てお香卯花ニわかめニ  
又月面ニ望と六色打もせ二つよはけ  
至初三色よ子親一包もせ四色也  
と四月と名付後三色へ子親二色  
ませ又色とと又月と名付初四色  
打もせ禁みし一札折居入とき四色

終て記録と一子親ときと恐  
音と記録と狗聞ハ四色二人より  
三色より一餅の面一色けし  
記録終て後五月れ香六色禁み  
札折居入とき又姓終て記録と  
魚一子親と聞しと己時と記一人  
聞三色二人より二色餅の面一色  
又度は札折き記録と一



新選和名集卷之二

表 札  
卯花 二枚  
葛蒲 二枚  
五月 二枚

裏 子親 三枚  
武隅 長柄  
人分 あり

伏見 嵯峨 北野 忍豆 須磨

愚音香之記

香紐 卯花 ねまき  
葛蒲 やしゆ  
子親 川 あり

名宗 葛卯親葛 卯親の親の

高羽 葛卯 忍豆 葛卯 己 七点

小倉 卯葛 忍豆 卯 己 葛卯 己 二点

渡渡 葛卯 忍豆 卯 己 卯 己 十一点

月日

○長寿香 双密組

福豆 壽豆

新選和名集卷之二

香二種也

右試二包して出香七包  
神仙一包試す密なり

右試二包して出香七包  
類祖七百葉

かとい煙記さきそそ立物す心記

深と一煙と百葉と記二煙

と二百葉とと外さるるは同く

獨開二点二人より二点帯れ

き二点二人より高一点立物と

す心も点教は同く七煙ささき

わのまは復美は白まてやるべ

六間より神仙の地より

の勝とす方なりとや白より

と後の勝とと

穀 福三枚 寿三枚 神仙一枚

一枚一人分より七拾枚より十人分

裏 白菊 黄菊 紅菊 谷菊 山菊

赤菊 甘菊 紫菊 物菊 残菊

立物

菊花 十字 小札は北の紋菊のつくし結成盤一  
番八千重八重一重のつくしを  
下は物あり圖れおし

彭祖人形 一川 圖れおし 赤まきまき一旗

盤

茶十字 朱白十字 金粉の十字

字百寿の字と可也 一川 中よ一口穴

とあり穴も百あり菊物より立て

是間次牙一間川 物あり物一川

乃穴ハ香一柱より立て

あり 而香の場世と板行よ多むはと愛よ所  
らひさしとては先考てかへ

長寿香之記

香盤 橋 山石内々

寿 紫世れま

神代 系代れ言

秀福福仙秀福秀

名茶  
白菊 福 仙秀 秀 又百葉

黄菊 秀福福仙秀福秀 九百葉

紅菊 秀 福仙秀 秀 六百葉

谷菊 秀福 秀 二百葉

月白

開茶香

流芳組

多飾り五月端午の日茶と開

きじたるはさきとありては書よき

たす由さ本邦も地乃りハハ

戯りとりとる金釵と賭よは

丁取し事廣れ久よりり

香五種也 一三色二三色三三色四三色

密二色試る

太紙四色焚紙てお香十色打ま也  
焚紙と客指間三息二人より八二息  
解い面一息一柱印しきめて立物乃  
寸じも息数は同しただ一門の連圓  
魚一立物のここび勝負源平香は  
ねる

札の紋

表 一 二枚 二 二枚 三 二枚 四 二枚 客 二枚

裏の紋立物乃花は縁又ハ字ニ書  
魚

立物

夏草花十弁 菖蒲 菘菜 百合  
金沢花 紅花 夏菊 風車 菘菜  
菜葉花 聖佳表 以上十色よりた五  
弁太又弁より色めても別魚

金銀一本勝負の場は真中に立て

くべーくらく勝負の場は玉りー

人めきさる一乃勝と定盤

盤

源平香乃盤は回ト

閑茶香記

香盤

一 形とふ  
二 角  
三 口  
四 横箱

二三ウ一三二ウ一四四

た方十六点持

名茶 葛蒲二 ヲ 三二 一四 七点

夏菊 三 ヲ 一 二 ヲ 四四 九点

右方十六点持

日 風車二 ヲ 一 三二 ヲ 一四四 十二点

日 百合三 ヲ 四 四四 四点

月日

○新團雜香

流芳絶響

團雜の戲たんじやくも亦事またこと久ひさし我國わがくに

少すくくハ折しや日ひや亦また小こ三月さんがつ正せい己じけ

りわりの終はつありまをまを會あひ合あひ乃なり

日ひけ戲たしわり

右みぎを橋はしをを左ひだりを橋はしをを

香かう三種さんしゆ也なり右みぎ同どう一いつ包ぱうけけ試しまま也なり

客きやく二に包ぱう試しす

右みぎ試し二に包ぱう過かて出で香かう十じゆ包ぱう打うちまま也なり

焚たき物ぶつと連れん中ちゆうた右みぎへへ口くち連れん團だんへへ客きやく

獨ひとり團だんハ二に間かん二に人にんより二に間かん餘あまハ一いつ点てん

立たて物ぶつのすすじもも点てんハ同どうト一いつ燈とうけけ也なり

二に人にん衛ゑい負おふふ一いつ記き録ろく面めんをを二に人にん

双さう方かう連れん中ちゆう間かんの數かず約やく雜じやくとすすじじべべし

双さう方かうハ雜じやく約やく合がハハままきき方かうハハ二に人にん

退たいきき多たハハ二に人にん教かう多たハハ二に人にん向むかへへゆゆく

大右方同ト開の時ハ雞うどかど開  
 す子き方後へ退退ハ先ら退退  
 目なき時ハ負なり香ハ未わきども  
 盤乃勝負ハ終り香ハわくまでと  
 きく魚一雞退ハ先ら終てもその  
 次きく多り然ハ又退りとすべし  
 次も聞がれど是ハ是ト勝負  
 終り又退ハ先ら退退も香終り

開す子き方負たゞ一  
 札の紋  
 表 橋四枚 客二枚 以三十枚一  
 人分なり十人トて百枚なり  
 裏 十柱香の札と同  
 立物  
 丹雞 一羽 白雞 一羽 橋 一軒 枱 一  
 一平枱わり 圖ハけり 著がめり

香道新法集行録上 三十一



げん<sup>盤</sup>々<sup>盤</sup>圖<sup>圖</sup>張<sup>張</sup>わ<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>〜

新聞雜香<sup>香</sup>記<sup>記</sup> 香盤<sup>香盤</sup>橋<sup>橋</sup>お<sup>お</sup>と<sup>と</sup>ん  
櫻<sup>櫻</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup> 寄<sup>寄</sup>川<sup>川</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>

橋<sup>橋</sup>橋<sup>橋</sup>橋<sup>橋</sup>ウ<sup>ウ</sup>橋<sup>橋</sup>橋<sup>橋</sup>ウ<sup>ウ</sup>橋<sup>橋</sup>橋<sup>橋</sup>

左丹雜方十六点勝

名<sup>名</sup>承<sup>承</sup>子<sup>子</sup>梅<sup>梅</sup>橋<sup>橋</sup> 橋<sup>橋</sup>橋<sup>橋</sup>ウ<sup>ウ</sup> 橋<sup>橋</sup>ウ<sup>ウ</sup> 橋<sup>橋</sup>十<sup>十</sup>点

青柳 橋<sup>橋</sup>橋<sup>橋</sup> ウ<sup>ウ</sup>橋<sup>橋</sup> 橋<sup>橋</sup> 六<sup>六</sup>点

右白雜方十三点

葵<sup>葵</sup>草<sup>草</sup> 橋<sup>橋</sup>橋<sup>橋</sup>ウ<sup>ウ</sup>橋<sup>橋</sup> 橋<sup>橋</sup>橋<sup>橋</sup> 八<sup>八</sup>点

緑<sup>緑</sup>松<sup>松</sup> 橋<sup>橋</sup> 橋<sup>橋</sup>橋<sup>橋</sup> 五<sup>五</sup>点

月日

古<sup>古</sup>來<sup>來</sup>圖<sup>圖</sup>雜<sup>雜</sup>香<sup>香</sup>と<sup>と</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>小<sup>小</sup>茶<sup>茶</sup>編<sup>編</sup>よ<sup>よ</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>云<sup>云</sup>  
う<sup>う</sup>き<sup>き</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>も<sup>も</sup>香<sup>香</sup>十<sup>十</sup>種<sup>種</sup>と<sup>と</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>初<sup>初</sup>心<sup>心</sup>の<sup>の</sup>後<sup>後</sup>き<sup>き</sup>

とけがく又開さる面白かどと  
て六儀香の開方と後より改し例  
あつて今たれど改りのあり

○投壺香

流芳組

投壺の事禮記より見きてそ  
めく久し温公の所謂穀思すと  
きは疎る情慢なる時は失と  
と又ゆと治へき一助とと香

是は又異なるごとく以て投壺と  
してあま紙組ゆ

- 一口色 二口色 三口色

香曰種也

右の内一色は試すかと

貫耳三色試す客あり

右試三色終て出香十二色打中を焚  
いと尤一煙をいよきあり箱中れ差  
別

初て焚おとと多と聞南と有初と  
 名付貴二点初て焚おとと香り  
 多と中南と貫耳と名付貴三  
 点二度目より以後客と聞南と  
 連中貫耳と名付て貴二点  
 十二柱各南ると全壺と云  
 十二柱各南りざると敗壺と云  
 終乃一柱さく南ると有終と名付

貴二点釣の香は南一息はズ  
 札の紋  
 表一 三枚 二枚 三枚 貫耳 三枚  
 望十二枚を人分る  
 裏十柱香の紋は同ド  
 立物  
 矢十本 矢数香の矢と用べ  
 投壺 一盤の白よとく壺のびと

盤 ばん  
 矢 や 數 かず 香 か の 盤 ばん れ ぢ ぢ 十 じゅう 竹 ちく 十 じゅう 六 ろく 回 かい 想 そう  
 金 きん 粉 こな 界 かい 一 いち 白 はく 一 いち 壺 ぼ と 居 ゐ 籠 かご わ わ へ  
 一 いち 子 こ く 約 やく 射 しゃ 一 いち 矢 や 壺 ぼ 子 こ さ さ と べ べ  
 初 しつ 審 しん と き き 一 いち 人 ひと の 矢 や 約 やく 着 つ 身 み は  
 一 いち と 一 いち 先 せん 一 いち の 勝 かつ 中 ちゆう 次 じ 一 いち 竹 ちく 端 たん  
 人 ひと 初 しつ 審 しん 聞 き わ わ 六 ろく 右 みぎ れ 身 み は は さ さ と 二 に の  
 務 む な な り

# 投壺香記

香組 一 と その  
 二 さ う こ  
 三 日 影 ひかげ の 花

貫耳 くわんみみ 志 し れ 落 らく

二三一貫二二三貫二三貫一

紅梅 こうばい 三一貫 三 二 引 ひ 八 はち 点 てん

初梅 しつばい 三一貫 二 一 三 十 じゅう 点 てん

青柳 せいりゅう 一 二 一 貫 七 しち 点 てん

千代松 卷一 終

同 玉 桂 初	一	二	一	一	三	三	八 点
同 子 蕨 初	三	一	二	一	二	二	十 七 点
同 綠 松	三	二	一	三	二	二	六 点

月日

千代松 卷一 終



